

日が短くなり読書に適した季節になりました。今月は本の楽しみ方など、保育園の先生や小中の司書の先生方にお話しをお聞きしました。



絵本の世界は無限大 ～オリジナルのお話作り～

つくし組（年少）担任 上田 洋平

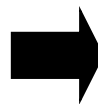
昨今、絵本の読み聞かせが発育の重要な可能性を担っているとされています。その効果についても『言葉の獲得』『情操教育』『想像力が豊かになる』『親子のスキンシップ』…と色々と言われていますね。今では胎教にもいいと言われています。

保育園でもよく絵本の読み聞かせを行っていますが、今回は『絵本を読んでもらい楽しかった』というだけでなく、そこからオリジナルのお話作りにもまで発展した取り組みを紹介したいと思います。

保育園、9月の誕生会で取り上げた絵本『ねこのピート だいすきなしろいくつ』が子どもたちのお気に入りになりました。年少さんにもわかりやすい繰り返しの内容とリズムカルな歌に大喜びで、何度も「もう1回読んで～!!」と言っていました。何度も読んでいるうちに子どもたちも内容を覚えてきたので、それなら…と「今日はただの『ねこのピート』ではなく『先生バージョンのねこのピート』を見てみよう!!」と私なりにお話しを考え、歌をうたいながら読んでいきました。子どもたちは「えーっ!!」「おもしろーい」「それなら何色だね」と様々な反応をしてくれました。その時、ある子が「こんなのはどう?」と『自分だったら…』をポツリと言ってくれました。すると、たちまち『自分だったらこうする!!』と言い始めたので、そこから『オリジナルのお話作り』が始まりました。ピートは『何の山に登ったから靴が何色になったのか』を一人ひとりが考え、それに合った色の靴を制作していきました。子どもたちは

ピートの絵本の『～かなりさ
いこ～!!』を合言葉に笑顔で取り組んでいました。

このように子どもたちは大人



制作でも、自分で考えたオリジナルの靴を作って楽しみました。

が飽きてしまうほど何度も何度も同じ本を読んでもらう中で言葉の持つ美しいリズムや言い回し、意味を理解していきます。そして内容が自分の中にしっかりと入ることで遊びや表現として出てくるのです。是非、お子様に自由に絵本を選ばせてあげて、気に入った絵本があれば何度も繰り返し読んであげてください。読むときは毎回最初から最後までと気負わず、お子様が開いたページだけ読むというのもいいでしょう。柔軟に楽しく読み聞かせを行えるといいですね。



図書館の司書の先生のお話し Q&A

☆ 青木小学校図書館司書 居鶴 俊子先生



Q 子どもが小さいうちは本を読み聞かせてあげることが大切だと言われています。どんな点に注意したらよいでしょうか。

A 読み聞かせは赤ちゃんの頃からしてあげてください。そして小学校5・6年になってもしてあげて欲しいと思います。親の声で読んであげることが大事です。声の大きさやスピードに決まりはありません。小さなお子さんなら膝の上に乗せて、小学生なら親と並んで同じ方向を向いて読んであげるといいです。字がメインの本などは、寝る前に布団の中で時間を決めて読んであげるといいと思います。そして、子どもが借りてくる本については「なんでこんな本を借りてくるの？」などとは言わず読んであげてください。親子のつながりを感じられる時間を本と共に過ごしてほしいと思います。

Q 親子で読むのにお勧めの本はありますか？

A 小学校の図書館にある本は、すべて親子共にお勧めの本です。子どもが学校から本を借りてきたら、「どんな本を借りてきたの？」と声を掛けてみてください。



Q 小学生はどのように本を借りていますか？

A 毎日2冊貸出なので、物語（絵本）1冊と他の分野の本（スポーツ・料理・工作・理科など）1冊を借りていく子どもたちが多いです。今の自分が主人公になるような本を借りていきます。5年生なら5年生くらいの子が主人公の本を借りていきますね。シリーズ本やス

トーリーにスピード感のある今どきの本が人気です。いじめについて考えさせられる本も借りていきます。怖い本も大好きです。マンガの本もありますが、読書が少し苦手な子どもたちが図書館に来て本を読むきっかけになっていると思います。

Q 小学生にはどのように読書をしてほしいですか？

A 誰にでも絶対好きな本は 1 冊あると思うので、図書館に来てたくさんの本を手にとって、お気に入りの本を是非見つけて欲しいです。そして、小学生の時に「読書は楽しい」ということを感じてもらって、中学に上がってほしいと思っています。



❁ 青木中学校図書館司書 滝沢 園子先生

Q 今の中学生の読書を見てどのように感じますか？

A 本当に時間がないと思います。勉強や部活、習い事や様々な行事もあります。それに今の子どもたちは本以外にも楽しいことがたくさんあります。自分で読書の時間をつくることは難しいと思います。中学校では週に数回、朝読書の時間があります。朝、静かに本に向き合う事で、その日一日を落ち着いて過ごせたりトラブルが減ったりしているようです。特に多感な時期の中学生にとってはこのような“孤読”がとても大切だと思います。

| 書名 | 著者名 | コメント |
|---------------|-------|---|
| 林業少年 | 堀米 薫 | 林業、なんかバツとない。そんな林業を家業とする家族一人一人の思い、思いとして愛情。登場人物の人間性がピンピンと伝わってきます。 |
| レインシリーズ | 吉野 匠 | レインという世界最強の男がいた。その男がシエルア姫を守るために戦場へと向かう。でも、姫と一緒に戦場に行くと言った。何故、自ら危ない所に？ |
| レインツリーの国 | 有川 浩 | ネットの書き込みから始まった恋。伸とひとみはひかれ合っていたが彼女には重大な秘密があった。心ときめかすストーリー。さっさとあなたも恋をしななな。 |
| 和菓子のアン | 坂本 司 | 食べるのが大好きな杏子。そんな杏子が働き始めたお店には和菓子にまつわる謎が舞い込んでくる。和菓子の種に接して、美味しいミステリー。 |
| わくわく 数の世界の大冒険 | 桜井 進 | 「1をかける」とビザリッドが得意やう！？読んでみると、計算がすくすくとけるので、勉強になります。この本は2冊まであります。 |
| わたしの優しい死神 | きのとよこ | 人を信じられなくなった女の子が選んだ道は「死」。そんな女の子に生きる意味を教えてくれたのは死神。何の目的で死神は女の子に近づいたのか。その結末は……。 |

今年 10 年目の「おすすめ本リスト」



10 月の新着本コーナー・紅葉

する「おすすめ本リスト」は、今年で 10 年目になります。生徒は先生方のおすすめ本にも興味があるようですが、同年代の目線からのおすすめ本リストは本を選ぶのに迷ったときなど大いに役立っています。中学校では、実現したい 5 つの姿「心を耕す読書」を柱に、単に本を読むだけの読書ではなく、本を選ぶ、すすめる、読み合うなど“共読”も大切に、読書習慣が継続できるきっかけづくりもしています。生徒が図書館で「この本、面白いよ」などと学年や性別を越えて話している姿を見るととてもうれしいです。

Q 中学生の読書のためにどのような工夫をされていますか？

A 月 2 回、「図書館だより」を発行しています。1 回は文学中心の「読む読む編」、もう 1 回は教科中心の「知る知る編」です。それに合わせて、図書館の入口に新着本のコーナーを設けています。その他にも話題の本や受験、学習に関するコーナーも設け、季節に合わせたディスプレイも行っています。

全校の生徒と先生方が一人一冊、70 字で本を紹介

Q 中学生にはどのような読書をして欲しいですか？

A 何冊読んだか、など読書量に目がいきがちですが、その子にとってその時必要な本に出会って欲しいです。子どもの頃に素晴らしい本と出会った経験のある人は、その後本から離れることがあったとしても、またいつか再び本に戻ることが多いようです。「読書はあま

り好きじゃない」という人もいるでしょうが、これから先の人生を変えたり人生の支えとなるようなかけがえのない一冊、心の琴線に触れるような本と巡りあえるようにいろいろな本を読んで欲しいと思っています。



信大 YOU 遊未来・青木企画

パシヤツとKOMADORI



10月25日(日)に学生企画「パシヤツとKOMADORI」を行いました。今回参加した小学生は37人、大学生が27人と全体的に少なかつたため、今までの企画に比べて班の学生と子どもが近い距離でかかわることのできる企画になったのではないかなと思います。今回の企画は、ストップモーションアニメを作ろうという目的のもとに行いましたが、各班それぞれとてもオリジナリティーのあるストップモーションアニメができました。

ンアニメができました。

はじめの1時間くらいでどのようなテーマ、ストーリーのアニメを作るかということと、それに伴った衣装や小道具の作成を行いました。お祭りをテーマにした班では、おけを使って金魚すくいを作ったり、お姫様を助けるストーリーを作成した班はお姫様の衣装を作ったりといろいろなものが作られていました。実際にストップモーションアニメの写真を撮る活動になると、自然と動きを指示する子ども、カメラで写真を撮る子ども、道具を次々に作っていく子ども、など必要な役割は何かを自分たちで考えて活動していました。

今回、今までのようなある程度決まったゲームなどをする企画とは違い、子どもたちの個性に任せたのでそれぞれの子どもが班の中で何をやりたいか考えて、協力しながら作成するという新たな一面を見ることができました。



◀へんしゅうこうき

本離れがささやかれていますが、時には親子で図書館に足を運んだり、気に入った本や話題の本の話しをしたりして、親子のコミュニケーションやふれあいができるといいですね。中学生が作成したおすすめ本リストは、村の図書館で見ることができます。